

特16

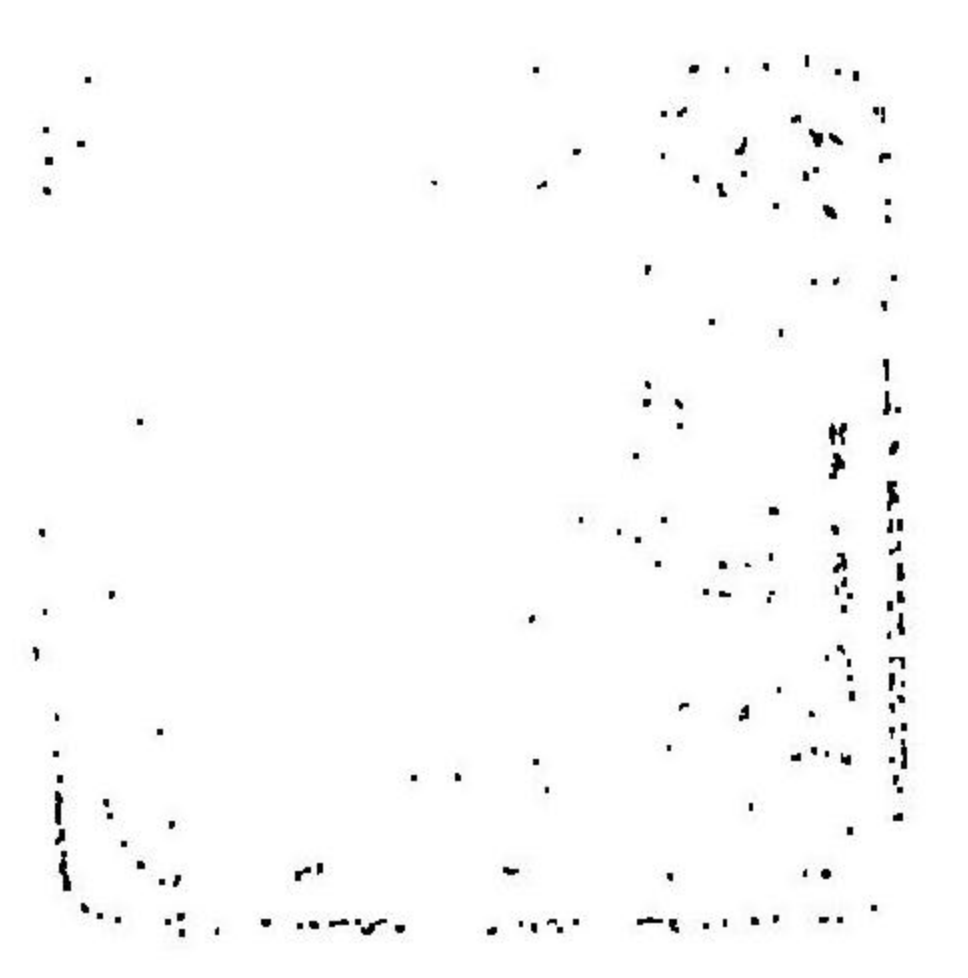
957

森作太郎註解

刑法  
治罪法  
附錄註解  
成

明治十五年五月印行

大坂 若林猶齋堂製

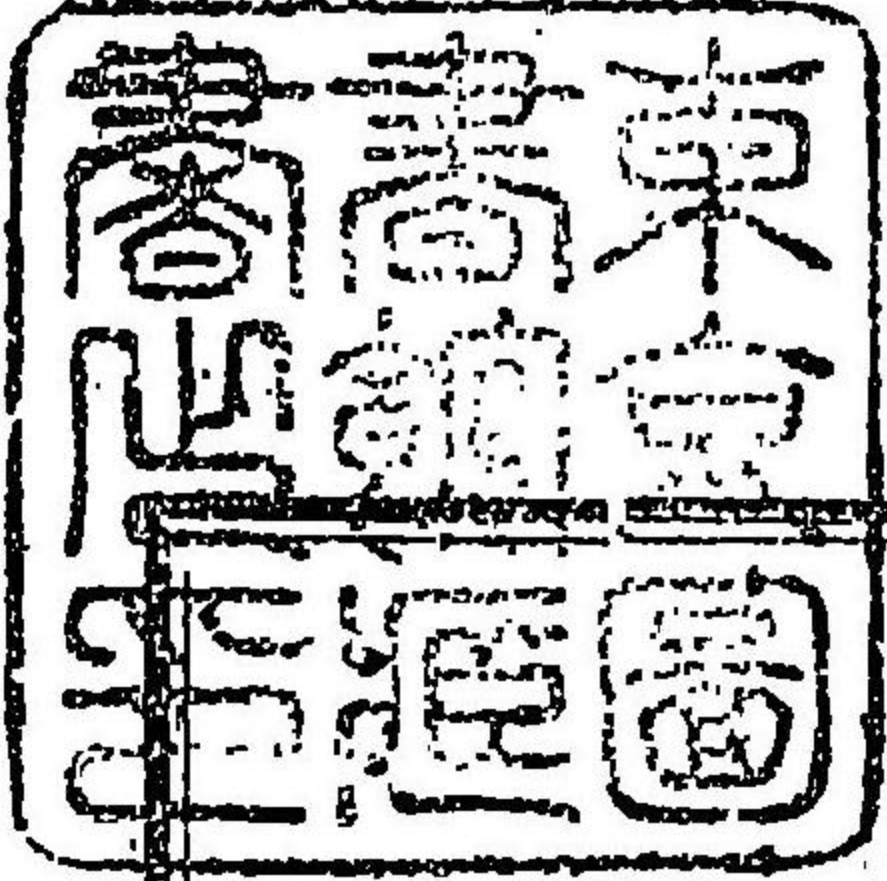


緒言

余曩ニ刑法治罪法註解大成ヲ著ハス爾來刑法治罪  
法ニ關スル布告布達ノ類陸續出烏今其必要ナル者  
ヲ蒐集シテ刑法治罪法註解大成附録ト爲ス法律ニ  
志アル者宜ク刑法治罪法ト互ニ参照スヘキナリ

明治十五年三月

編者識



刑法治罪法註解大成附錄目次

森 作太郎註解

刑法之部

○十四年太政官布告第六十二號府縣廳ノ條規ニ違犯スル者處分廢止ノ事

○十四年太政官布告第六十四號密賣淫懲罰警視地方官へ委任ノ事

○十四年太政官布告第六十七號刑法附則

○十四年太政官布告第八十一號新舊法比照例

○十四年司法省達丙第二十號既決囚ノ逃走シタル者ニ對スル令狀ノ事

治罪法之部

- 十四年太政官布告第四十四號違警罪審判手續當分宜便取計ノ事
- 十四年太政官布告第四十五號控訴上告証人呼出費用等ノ事
- 十四年太政官布告第四十六號當分書類送達治罪法第二十四條ノ制限ニ從ハサル等ノ事
- 十四年太政官布告第四十七號責付手續ノ事
- 十四年太政官布告第四十八號當分違警罪ハ警察署ニテ管轄スル事
- 十四年太政官達第八十二號司法官吏ヨリ巡查及ヒ兵員ヲ要求スル手續ノ事
- 十四年太政官達第八十六號裁判所取締ノ爲メ巡查爲相

- 詰等ノ事
- 十四年太政官布告第五十三號裁判所ノ位置及管轄區畫
- 十四年太政官布告第五十四號治安裁判所ニテ輕罪裁判所ヲ開ク事
- 十四年太政官布告第五十五號陪席判事補充判事ノ事
- 十四年太政官布告第五十九號勾引被告人夜間留置場ノ事
- 十四年司法省布達甲第五號巡查ヲシテ警部代理ヲ爲サシムル事
- 十四年司法省達丙第十三號同上ノ事
- 十四年司法省達丁第十八號書記其他訟庭心得
- 十四年司法省達丁第二十一號判事檢事書記印章ノ事

- 十四年司法省布達甲第七號裁判言渡ノ謄本費用ノ事
- 十四年司法省布達甲第八號所屬代言人規則
- 十四年司法省達丙第拾五號豫審判事檢事直ニ巡查ヲ使  
用スル事
- 十四年司法省達丙第拾六號實印無之者拇印ヲ以テ代用  
スル事
- 十四年司法省達丁第廿六號使丁規則
- 十四年司法省達丁第廿七號治安裁判所ニテ輕罪裁判所  
ヲ開クニ名稱印章ノ事
- 十四年太政官布告第六十五號商船內犯罪取扱規則
- 十四年司法省達丁第廿八號送達書々式
- 十四年司法省達丁第三十號裁判所印章ノ事

- 十四年司法省達丁第三十一號裁判言渡ノ謄本費用ノ事
- 十四年太政官布告第七十一號治安裁判所ニ於テ輕罪裁  
判所ヲ開クニ檢察官ノ事
- 十四年太政官布告第七十三號無能力者法律ニ定メタル  
代人民事擔當人ノ事
- 十四年太政官布告第七十六號裁判所名稱區畫改正ノ事
- 十四年太政官布告第七十四號刑事ニ關スル控訴當分不  
施行事
- 十四年太政官布告第七十七號相川外十三治安裁判所ハ  
輕罪裁判所ヲ開ク事
- 十四年太政官布告第七十八號重罪裁判所管轄區劃
- 十四年太政官布告第七十九號北海道及沖繩縣裁判管轄

ノ事

- 十四年太政官布告第八十號第四十八號布告改正
- 十四年太政官布告第八十二號十四年十二月三十一日以前着手ノ刑事ハ治罪法ニ拘ハラサル事
- 十四年司法省布達第二號裁判所名稱ノ事
- 十五年太政官布告第一號代言人無之場所ハ辯護人ヲ要セサル事
- 十五年太政官布告第七號海上路程猶豫ノ事
- 十五年司法省達丙第四號拘引狀期限ノ事

刑法治罪法大成註解附錄目錄畢

刑法治罪法註解大成附錄

刑法ノ部

明治十四年十二月六日  
太政官布告第六十二號

明治十年一月第十三號布告府縣廳ノ條規ニ違犯スル者處分規則ノ儀ハ明治十五年一月一日ヨリ發止ス

右奉 勅旨布告候事

明治十年一月第十三號布告府縣廳ヨリ達シタル條規ニ違犯スル者ハ罰金ニ處スル法律ヲ廢止セラレタルナリ

明治十四年十二月九日

太政官布告第六十四號

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘト

モ當分ノ内其取締懲罰ハ從前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官へ委任ス

右奉 勅旨布告候事

密賣淫ノ刑ハ刑法第四百二十五條第十項違警罪ノ部内ニ掲ケ  
テモ當分ノ内之ヲ實施セシム從前ノ通警視廳及ヒ地方官ニ  
其處分ヲ委任スルト云フナリ

第六拾七號

刑法附則別冊ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

明治十四年十二月十九日

太政大臣三條實美  
司法卿大木喬任

刑法附則目錄

第一章 主刑執行

第二章 監視

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第四章 刑事裁判費用

第五章 賠償處分

第一章 主刑執行

刑ニ主刑附加刑ノ二大別アリ本章ハ其主刑執行ノ規則ナリ

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ獄司

刑場ニ立會獄司ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル後獄下ヲシテ之ヲ決行セシム但其期限ハ午前十時前

トス  
死刑ハ監獄場内ニ於テ行フモノナリ  
○檢察官ハ檢事長檢事  
檢事補等ヲ云ヒ獄司ハ監獄長ヲ云フ  
○死刑ノ言渡確定シタ

刑法治罪法註解大成附錄

ルキハ檢察官ヨリ速ニ訴訟書類ヲ司法卿ニ差出シ司法卿ヨリ死刑ヲ執行ス可キノ命令アリタル時ハ三日内ニ其執行ヲ爲スモノナリ○刑法第十二條第十三條治罪法第四百六十條參看

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

執行ニ關スル者トハ前條ニ掲ケタル檢察官書記獄司獄丁等ヲ云フ

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

死刑ノ執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシメ絞首シタル遺骸ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ二分時間ヲ過ギサレバ埋葬若クハ下付スルコトヲ得ザルモノトス○死刑ヲ執行シ畢リタルキハ書記始末書ヲ作り檢察官書記獄司各々署名捺印

スルモノナリ○治罪法第四百六十三條參看

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

元始祭一月三日

孝明天皇祭一月三十日

紀元節二月十一日

春季皇靈祭春分日明治十五年ハ三月二十一日

仁孝天皇祭二月二十一日

神武天皇祭四月三日

六月大祓六月三十日

秋季皇靈祭秋分日明治十五年ハ九月二十三日

神宮新嘗祭十月十七日

天長節十一月三日



後桃園天皇祭十二月六日

新嘗祭十二月二十三日

光格天皇祭十二月十三日

十二月大祓十二月三十一日

刑法第十四條ニ大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ストアリ本條ニ掲ケタル日ハ即チ此大祀令節國祭ノ日ナリ

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ懷胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ決行ス可シ

死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女ハ懷胎ト申立ルモ懷胎ナルコト分明ナル上ニアラザレハ死刑ヲ停止セザルナリ○刑法第十

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親族故舊請フ

者アル時ハ獄司之ヲ許可シ下付スルコトヲ得

死刑ニ處セラレタル者ノ遺骸ハ其地方ニテ定メタル場所ニアラザレハ埋ムコトヲ得ザルナリ○刑法第十二條ニ從ヒ請フ者アレハ之ヲ下付スルナリ

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテ

モ獄司ノ許可ヲ得テ其親族故舊ニ接見スルコトヲ得

裁判官渡ヨリ死刑ノ執行マテ何時ニテモ親類故舊ニ面會スルコトヲ許ス

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人住居ノ地

屬ハ華士族平民ヲ云フ籍ハ本籍ヲ云フ

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

徒刑又ハ流刑ニ處セラレタル者ハ内務卿ノ命令ヲ待テ後島地ニ發遣ス○刑法第十七條第二十條參看

第十條 徒刑ノ囚ハ嶋地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

獄外ノ役トハ獄舍外ノ地ニ於テ開墾等ノ役ヲ執ラシムルコトヲ謂フ

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

流刑ノ囚ハ定役ニ服セサルモノナレトモ本人自カラ請テ工業ヲ爲スト欲スルモ之ヲ許ス

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スコトヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

刑罰ノ執行ニ依リテ無期流刑ノ囚ハ五年ヲ經過シテ假出獄ヲ許サレタル者ハ其家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スコトヲ得

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシム若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ獄司ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得

刑罰ノ執行ニ依リテ無期流刑ノ囚ハ五年ヲ經過シテ假出獄ヲ許サレタル者ハ其家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スコトヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ニ罪ヲ犯シタ

ル時ハ本刑期內ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可

シ

幽閉ヲ免セラレタル流刑ノ囚人再ヒ他罪ヲ犯シタルハ流刑ノ限內タリトモ之ニ拘ハラヌ島地ニ於テ直チニ其再犯スルヲ執行ス

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

懲役及ヒ重禁錮ハ獄內ニ於テ役ニ服セシムルノミナラス獄外ニ於テ役ヲ執ラシムルコトアリ○刑法第二十二條第二十四條參看

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄內ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント

請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

禁獄及ヒ輕禁錮ハ俱ニ定役ヲシト雖モ流刑ノ囚人ト同ク本人自ラ好シテ工業ヲ爲サント請フキハ亦之ヲ許ス○刑法第三十三條第二十四條參看

第十八條 服役限內更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯

ノ刑期百日以內ハ工錢ヲ給與セズ

定役アル囚人服役百日以內ナル者ハ刑法第二十五條ニ依リ工錢ヲ給與セサルヲ以テ本條ハ服役限內ニ於テ更ニ罪ヲ犯シ定役アル刑ニ處セラレタル者モ亦其再犯ノ刑期百日以內ナルハ工錢ヲ給與セサルコトヲ云フナリ

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ

領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

監獄則ハ明治十四年太政官第八十一号ヲ以テ達セラレタリ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ

犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於ル亦同シ刑ニ處セラレ未タ納完ニ至ラサル前本人死法シタルトモ其相續人ヨリ之ヲ徵收セサルナリ

第二章 監視

監視ハ附加刑ノ一ニシテ本章ハ其規則ナリ

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル  
爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

監視ハ犯罪人ヲシテ再ヒ罪ヲ犯スル勿ラシメソカ爲メニ主刑ノ終リタル後犯人ノ行狀ヲ監視スル所ノ規則ナリ○刑法第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條參看

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時獄司ヨリ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止テ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ

監視ニ付スルモ先ツ本人ヲシテ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時主刑ヲ執行シタル監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿

期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

犯人ヲ警察署ニ護送スル時ハ何年何月何日ヨリ期限ヲ起算シ何年何月何日ニ滿期ト云フヲ記載シタル書面及ヒ裁判官渡ノ謄本ヲ附ス○刑法第四十條參看

第三十四條 犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過シル者ハ獄司若クハ檢察官ヨリ先ツ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致ス可シ

犯人ノ住居ノ地ニ在ルハ先ツ最近ノ警察所ニ護送シ夫ヨリ犯人住居ノ地ニ在ルハ先ツ最近ノ警察所ニ護送スルナリ

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直ニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ

犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地

ニ警察所ニ遞送ス可シ

本條ハ第二十四條ノ場合ニ於テ犯人ヲ受取リしル警察所

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期間

遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ

遵守ス可キ條件ハ第二十七條ニアル條件ヲ云フ

第二十七條 監視ニ付セラシタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ

遵守ス可シ

第一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監

視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受テ可シ但疾病又ハ已ム

コトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ

其事由ヲ届出ツ可シ

二日酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ

許シタル其罪ノ警察所ニ具申シ官吏ノ認印ヲ受テ可シ

第三十條 事故アリテ其住居ヲ轉移セシトスル時ハ警察所ニ申

請シ許可ヲ受テ可シ

四 直轄ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ已ムコトヲ得

ルコトハ事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受

テ可シ

第二十八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ

臨檢スルコトアル可シ

監視ニ付セラレタル者ハ前條ノ規則ヲ遵守スルノ外警察官

吏臨時其家宅ニ來リテ視察スルコトアルヘシ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時

其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載  
シタル書類ヲ遞送ス可シ

本條ハ第二十七條第三ノ許可アリタル場合ハ手續ナク

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程

ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シ

テ旅券ヲ付與ス可シ犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所

ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來

リ直テニ旅券ヲ警察署ニ還納ス可シ

本條ハ第二十七條第四ノ許可アリタル場合ノ手續ナリ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル

時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着

之日旅券ヲ添ヘ警察所ニ差出テ可シ

第三十二條 監視ニ付スル者住居ヲク及ヒ引取人ヲキ時ハ

其期限間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス

住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

懲治場トハ刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ記載セル  
幼者及ヒ瘡癩者并ニ尊屬親ノ團ニ依リ放恣不良ノ幼者ヲ入  
ルヘキ場所ヲ云フ

第三十三條 懲治場ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住

居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期

ノ監視ヲ執行セシム可シ

監視ノ期限中懲治場ニ留置シタル者ハ其日數ヲ監視期限ニ  
算入スルナリ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付

ス可キ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス

可キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ

執行ス可シ

通算トハ前ノ監視期限ト後ノ監視期限ト合セテ其期限間  
監視ニ付スルコトナク

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ  
其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セサレハ刑法第二十  
七條ニ依リ一圓ヲ一日ノ輕禁錮ニ換フ此場合ニ於テハ其日  
數ハ監視ノ日數中ニ算入スルナリ

第三十六條 監視ニ付セワレタル者其規則ヲ謹守シ悔改ノ  
狀アル時ハ警察官ヨリ事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ  
受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

假ニ監視ヲ免セラレタルモノハ第二十七條ノ條件ヲ遵守ス  
ルニ及ハス唯次條ノ規則ニ從フノミナリ○刑法第四十一條  
參看

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時

ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

假ニ監視ヲ免セラレタル者ト雖モ住居轉移ハ監視同様ナリ  
第三章 仮出獄及ヒ特別監視  
重罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル  
時ハ流刑ノ外ハ其刑期四分ノ三ヲ經過シタルノ後又無期徒  
刑ハ十五年ヲ經過スルノ後ハ行政ノ処分ヲ以テ假ニ出獄ヲ  
許スルコトヲ得ルモノニシテ本章ハ其假出獄并ニ假獄中特別監  
視ノ規則ナリ

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ其犯人  
ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレン  
コトヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ  
第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ獄司ヨリ其證票ヲ犯人  
ニ下付ス可シ

證票ハ次條ノ條件ヲ記載シタル證書ナリ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日

二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

殘期トハ警ヘハ輕懲役八年ニ處セラレタルモ六年間服役シタルモ二年ハ即チ殘期ナリ○特別監視ハ第四十一條ヨリ第四十五條迄ノ規則ヲ適用スルモノナリ○出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セサルトハ假出獄中ノ日數ハ刑期ノ期限ニ拘ハラサルナリ

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財產

ヲ治メ若シハ職業ヲ營メントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

重罪ノ刑ニ處セラレタルモハ別段言渡無クシテ刑期ノ間自カラテ財產ヲ治ムルコトヲ禁ゼラル、ト雖モ假出獄ヲ許サレ

タル者ハ治産ノ禁ノ幾分ヲ免ストキ得ヘシ○刑法第五十五條參看

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ

出獄ノ日獄司ヨリ其證票ノ謄本ヲ添ヘ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ

證票ノ謄本トハ第四十條ノ證票ノ寫ナリ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條

第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

特別監視ニ付スル者ヲ護送シ且其監視ヲ執行スル手續等ハ通常監視ニ同シ

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條

件ヲ遵守ス可シ



一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ  
 監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已  
 ムヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時  
 ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ叅會スルヲ  
 許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請  
 シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サス

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス

特別監視ノ規則モ通常監視ノ規則ト同シ唯通常監視  
 ハ一月二度警察所ニ出頭スルヲ得シモ特別監視ハ所  
 ニモ住居ヲ轉移シ旅行ヲ爲スルヲ得ルヲ特別監視ハ  
 一週間毎ニ一度警察所ニ出頭シ他府縣ニ住居ヲ轉移  
 一ノ許サス且往復一日程ヲ過クル旅行ヲ爲スルヲ許  
 サルヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家  
 宅ニ臨檢スルコトアルヘシ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ  
 假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル  
 獄司ニ遞送ス可シ主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル  
 時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ  
 時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ懲治場ニ留置ス可シ

第四章 刑事裁判費用  
 第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通

辨人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條  
第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲  
ス

刑法第四十五條ニ刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人  
ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ムトアルモノ  
乃チ是ナリ

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ

日當五十錢

旅費一里拾錢

止宿料一宿貳拾五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ  
地ニ滯在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地ニ在  
ル者ハ旅費止宿料ヲ給セズ

醫師鑑定人通辯人翻譯人ノ日當旅費止宿料ハ本人ノ請求ナ  
シト雖モ給與ス○治罪法第九十條參看

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第九十

條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ  
給スルヲアル可シ

第五十二條 解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻

譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ

於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

裁判費用ハ刑ニ非サルヲ以テ犯人死スルトモ其相續人ニ於  
テ之ヲ負擔セサルヲ得ス

第五章 賠償處分

贓物ノ還給損害ノ賠償ヲサシムル規則ナリ

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直ニニ被害者ニ還付  
 スト雖モ若シ轉轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求  
 ニ因リ還給セシムル者トス

贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ刑法第四十八條ニ依リ被害者ノ請求  
 求ナシト雖モ直ニニ追徴シテ被害者ニ還付ス若シ其贓物  
 轉シテ他人ノ手ニ移リタルハ被害者ノ請求ニ因リ裁判言  
 渡ノ上之ヲ返還セシムルナリ

第五十五條 贓物轉轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買  
 取シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ  
 償ハサレハ直ニニ還給セシムルヲ得ス

若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ム  
 ヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得

公商トハ公ケノ商人ヲ云フ若シ贓物轉轉シテ他人ノ手ニ移  
 リタルハ公商ノ手ヲ經テ買受ケタル物品ハ先ツ其公商  
 テ原價ヲ辨償セシメ苦シ其公商原價ヲ辨償スルヲ能ハサル

キハ被害者ヨリ代價ヲ辨償ヒサレハ之ヲ取戻スヲ能ハサル  
 ナリ若シ公商ニ由ラスシテ買受ケタル者ハ之ヲ返還セサル  
 ヲ得ス唯賣主ニ對シテ其價ヲ求ムルヲ得ルノミナリ

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物  
 現在スル時ハ還給ヲ拒ムヲ得ス但典物トシテ受取タル  
 者ハ典主ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得

贓物ヲ買ヒ受ケタル者ハ勿論返還セサルヲ得ス質ニ取リ  
 タル者モ亦返還セサルヲ得スト雖モ其質置主ニ對シテ償ヲ  
 要求スルヲ得ルナリ

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否ト  
 ナ區別シ第五十七條ノ例ニ從テ處分スヘシ

他物ト交易シテ贓物ヲ得タル者其贓物現在スルキハ第五十  
 五條ニ依リ公商ニ由ルト否トヲ區別シテ處分スルヲ云フ

第五十八條 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可ラサル時  
 又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得

贓物ヲ已ニ費用シ又ハ其所在相分ラサルキハ被害者ニ於テ  
損害ノ賠償ヲ求ムルヲ得ルナリ

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪  
ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルヲ得但失  
火ハ此限ニ在ラス

人ノ名譽ヲ毀損シ又ハ人ヲ殺傷スル等其他犯罪ヨリ現ニ損  
害ヲ來シタルキハ皆金額ヲ以テ其損害ヲ賠償セシムルヲ  
云フナリ○茲ニ犯罪ヨリ現ニ生シタル損害ハトアルハ凡  
犯罪ニヨリ損害ヲ受ケタリト云フモ單ニ想像ニ止ル者ハ其  
賠償ヲ求ムルヲ得ス其損害ハ直チニ犯罪ヨリ生シ來リ且  
證明シ得タル者ニ非サレハ賠償ヲ求ムルヲ能ハサルヲ謂フ  
ナリ

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事  
裁判所ニ請求スルヲ得若シ其審判已ニ終リタル後ハ民  
事裁判所ニ非サレバ之ヲ請求スルヲ得ス

刑法第四十八條治罪法第四條ノ如ク贓物ノ還給損害ノ賠償

ハ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ之ヲ爲スヲ得然レトモ刑  
事ノ審判已ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非サレハ請求スル  
ヲ得サルナリ

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請  
求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スヲ得其  
民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

刑事裁判所ニ請求スル者ハ訴訟ノ程式ニ從ハス通常ノ書面  
又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ヘシト雖モ民事裁判所ニ出  
訴スル者ハ訴訟用紙紙其外總テ通常民事ノ法式ニ從フヘキ  
ナリ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相  
續人ニ對シ之ヲ要求スルヲ得

贓物ノ還給損害ノ賠償ハ財産ニ關スル事ナルヲ以テ犯人死  
去スルトモ其財産相續人ニ對シ之ヲ請求スルヲ得ルナ  
リ

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還

給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ  
處分ヲ請求スルコトヲ得

贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ爲スヘキ旨ノ言渡ヲ受ケタル者其  
言渡ヲ執行セサルハ被害者ヨリ民事裁判所ニ其執行ヲ求  
ムヘキナリ

明治十四年十二月廿八日

太政官布告第八十一号

刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ニ從フヘ  
シ

第一條 新舊法比照スルニハ左ノ如シ

刑法第三條第二項ニ所犯新法前ニ在テ新法實施後ニ裁判ヲ  
爲スヘキ者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕ニ從テ處斷スヘキ旨ヲ定  
メタルトモ舊法ノ刑ト新法ノ刑トハ大ニ相異ナルヲ以テ之  
ヲ比照スルコト容易ナラス由テ左表ノ如ク比較ノ定例ヲ示シ  
タルナリ

新法	舊法
一 死刑	斬絞
二 無期徒刑	懲役終身
三 有期徒刑	懲役終身
四 無期流刑	禁獄終身
五 有期流刑	禁獄終身
六 重懲役	懲役十年
七 輕懲役	懲役七年
八 重禁獄	禁獄十年
九 輕禁獄	禁獄七年
十 重禁錮	懲役十一日以上五年以下
十一 輕禁錮	禁獄鎖錮十一日以上五年以下

十二罰金

贖罪收贖罰金科料二圓以上

十三拘留

懲役禁獄鎖錮拘留十日以下

十四科料

贖罪收贖罰金科料二圓未滿

第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期內ニ在ル時ハ新法ニ從  
 フ但シ舊法ノ刑期ニ過クル事ヲ得ス(舊法ニ於テ懲役百日  
 ニ該ル者新法ニ從ヒ二月以上百日以下ノ重禁錮ニ處スル  
 ノ類)若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ  
 定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ(舊法ニ於テ禁獄  
 三十日ニ該ル者新法ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ  
 該ル時ハ舊法ニ從ヒ禁獄三十日ニ處スルノ類)

舊法ノ刑期ハ一ナリ新法ノ刑ハ長期ト短期ト二期アリ故ニ  
 舊法ノ刑期新法ノ刑ノ長期ト短期ト間ニ在ル者ハ新法ニ  
 從フ然トモ舊法ノ刑期若シ新法ノ短期ト同一ニシテ舊法ニ  
 定役ナク新法ニ定役アル者ハ舊法ニ從フナリ

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ

者ニ從フ但シ其長期ノ短キ者ニ過ル事ヲ得ス(舊法ニ於テ  
 一年以上三年以下ノ懲役ニ該ル者新法ニ照ラシ三月以上  
 四年以下ノ重禁錮ニ該ルキハ新法ニ從ヒ三月以上三年以  
 下ノ重禁錮ニ處スルノ類)若シ舊法新法ノ刑其短期等シク  
 シテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從カフ(舊  
 法ニ於テ二月以上三年以下ノ禁獄ニ該ル者新法ニ照ラシ  
 二月以上二年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ二月以  
 上二年以下ノ禁獄ニ處スルノ類)

舊法新法共ニ長期ト短期トアル者ハ其最モ短キ方ニ從フト  
 雖也其長期ノ短キ者ニ過ルヲ得ス若シ兩法トモ長期短  
 期相均シキハ定役ナキ者ニ從フ

第四條 舊法ノ贖罪收贖若クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ

金額内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但シ舊法ノ金額ニ過クル事ヲ得ス

本條モ亦第二條ト同一ノ趣意ナリ

第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡數ノ寡キ者ニ從フ但シ其多數ノ寡キ者ニ過クル事ヲ得ス

本條ハ第三條ト同一ノ趣意ナリ

第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可キキハ其罰金ヲ附加セス

體刑トハ禁獄懲役等ノ如ク直チニ其身體ヲ拘束スル刑ヲ云フナリ

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ルトキハ新法ニ從フ舊法ニ於テ贖罪收贖若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ルキハ舊法ニ從フ

第八條 舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期限内ニ納完スル能ハサルキハ一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但シ一圓未滿ト雖モ仍ホ一日ニ折算ス

罰金科料ヲ納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ禁錮又ハ拘留ニ處スルコトハ刑法第二十七條第三十條ニ定メタリ由テ舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者ト雖モ納完スルコト能ハサル者ハ禁錮又ハ拘留ニ換ルコト云フナリ

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スルキハ新法ノ附加刑ヲ適用セス但シ除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從フ

舊法時代ノ犯罪ヲ新法ニ從ヒ重罪ニ處スルキハ新法ノ附加刑ヲ適用スルコトナシ但除族追奪位記沒收ハ舊法ニ從テ處分スルナリ

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スルキハ監視ヲ附加セス

舊法時代ノ刑ヲ新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スルハ監視ヲ附加スルヲナシ

第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處斷スルハ其族ヲ除セス

舊法ニ於テ華士族ノ犯罪破廉耻甚ニ該ル者ハ除族ニ處スルハ除族セシムルニ於テ輕罪ニ該ル者ニシテ舊法ニ從ヒ處斷スルハ除族セシム

第十二條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

舊新ノ刑ヲ比照スルニハ雙方共法律ニ從ヒ加重減輕シタル者ヲ本刑ト爲シテ比照スルナリ

第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス

新法ニハ棒鎖ノ刑ナシ故ニ舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ乃チ棒鎖ニ處スルナリ

右勅旨ヲ奉シ布告候事

明治十四年十二月廿八日

司法省丙第貳拾号

新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可心得此旨相達候事

刑法第六十二條刑ノ執行ヲ通シタル者ニ對シ逮捕ヲ命ジタルハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ストアルトモ其令狀ハ何人ヨリ發スヘキ者ナルヤ分明ナラザルニ付茲ニ之ヲ解釋シテ刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スヘキ者ナリ



刑法治罪法註解大成附錄

治罪法ノ部

森 作太郎註解

明治十四年九月二十日

太政官布告第四十四號

違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フヘシト雖  
モ實際已テ得サル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ヲロヒ其裁  
判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サス此旨布告候事

違警罪ノ審判手續ハ治罪法ニ從フヘキハ勿論ナリト雖モ當  
分ノ内實際止ムヲ得サル場合ニ於テハ適宜ノ取計ヲ爲シ敢  
テ治罪法ニ拘ハルヲ要セス又違警罪ノ裁判言渡ニ對シテ  
ハ檢察官ト被告人トヲ問ハス總テ上訴ヲ爲スヲ許サハル  
ナリ

明治十四年九月二十日

太政官布告第四十五號

公訴私訴ニ係ル控訴上告及ヒ証人呼出費用等ノ儀當分左ノ  
通相定候條此旨布告候事

刑事裁判所ノ裁判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ控訴又ハ上告  
ヲ爲ス者アルキハ原裁判所ニ於テ其訴訟費用ノ金額ヲ算定  
シテ之ヲ豫納セシムヘシ豫納スルコト能ハサルキハ控訴又  
ハ上告ヲ爲スヲ許サス豫審又ハ公判ニ付證人ヲ呼出サント  
請フ者アルキハ裁判所ニ於テ其旅費日當等ノ金額ヲ算定シ  
テ之ヲ豫納セシムヘシ若シ被告人旅費日當ヲ豫納スルノ資  
力ナキキハ治罪法第七十條ノ制限ニ從ヒ裁判所ニ於テ其  
費用ヲ立替置クヘシ

刑事裁判所ノ裁判言渡ニ對シ人民ヨリ控訴上告ヲ爲サント

スルキハ其公訴ニ關スルト私訴ニ止ルトキハ  
ノ書記局ニ於テ豫納ノ裁ト費用ノ金額ヲ算定シテ之ヲ上納  
セシム若シ之ヲ納メテハ能ハサル者ハ控訴上告ヲ爲ス  
許サス又豫審公判ニ於テ証人ヲ呼出サント請フ者ハ其  
費日當ノ金額ヲ算定シテ之ヲ豫納セシムヘシ然レモ被告  
資力ナキキハ裁判所ニ於テ其旅費日當等ヲ立替置クナ  
裁判費用ノ事ハ刑法附則第四十八條以下ニ見ユクナリ

明治十四年九月二十日

太政官布告第四十六號

書類送達ニ付治罪法第二十四條ノ制限有之候ヘトモ當分ノ  
内不及其儀候事

治罪法第二十四條ニ依テ限ノ日及ヒ日出前日没後ハ書類ノ送  
達ヲ爲スヘカラスト云フ制限アリトモ當分ノ内之ニ拘ハラ  
ス休暇ノ日及ヒ夜間ト雖モ書類ノ送達ヲ爲スヲ得ルヲ云  
フナリ

治罪法第四十條ニ犯罪ノ地ヲ以テ裁判管轄ト規定有之候處  
當分ノ内犯罪ノ地分明ナル被告人ト雖モ管轄裁判所ヨリ囑

託アリタルハ其被告人逮捕ノ地ノ裁判所之ヲ管轄スヘシ

治罪法第四十條ニ據レハ同等ノ裁判所ニ於テハ通常犯罪ノ  
地ノ裁判所ヲ以テ管轄ト爲シ犯罪ノ地分明ナラサル者ニ限  
リ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ管轄ト爲セトモ當分ノ内  
犯罪ノ地分明ナル者ニテモ犯罪ノ地ノ裁判所ヨリ依頼アリ  
タルハ逮捕ノ地ノ裁判所ニテ裁判スルヲ得ルナリ

治罪法第七十三條第二項ニ陪席判事四名ト有之候ヘトモ當  
分ノ内二名ト相定候事

治罪法ニ於テ重罪裁判所ノ陪席判事ハ四名ナリトアレトモ  
當分ノ内減員シテ二名ト爲シ即チ裁判長ト俱ニ三名ノ判事  
ニテ開庭セシムルナリ

治罪法第一百一條ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其舉動犯人  
ト思料スヘキ者アルハ當分ノ内現行犯ニ准シ處分スルヲ  
得

治罪法第一百一條ニ第一ヨリ第三マテ現行犯ニ准スヘキ場合  
ヲ掲ケ其他ハ皆非現行犯ヲ以テ處置スヘキ者ナレトモ當分

ノ内右第一百一條ニ掲ケサル者ト雖モ其舉動犯人ト思料スヘ  
キ者ハ現行犯ニ准シテ處置スルモ苦シカラサルヲ云フナ  
リ然レモ是唯其舉動顯然犯人ト思料スヘキ者ニ限リ猥ニ  
臆測ヲ以テ處置スルカ如キハ固ヨリ背法タルナリ

治罪法第三百三十三條第三項ニ家宅搜索ノ制限有之候ヘトモ  
芝居人寄席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日没後  
ト雖モ其營業ヲ爲ス時間又旅籠屋貸座敷ハ日出前日没後ニ  
均ラス搜索致シ苦シカラス

治罪法第三百三十三條ニ據レハ日出前日没後ハ家宅搜索ヲ爲  
スルヲ許サハル規則ナレモ芝居人寄席料理屋湯屋遊船待合  
茶屋ノ類及ヒ旅籠屋貸座敷ハ夜間ト雖モ搜索ヲ爲スルヲ得  
ルナリ

治罪法第六十八條第七十二條ニ於テ治安判事ニ囑託ス  
ルヲ許シタル處分ハ當分ノ内其地ノ司法警察官ニモ囑託  
スルヲ得

治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發スル  
ト得サル旨記載有之候ヘトモ當分ノ内現行犯ノ場合ニ限  
リ令狀ヲ發シ苦シカラス  
當分ノ内治罪法第二百五條ノ規則ヲ用ヒテ現行犯ノ場合ニ  
於テハ司法警察官モ令狀ヲ發スルコトヲ得ルナリ

治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發スル  
ト得サル旨記載有之候ヘトモ當分ノ内現行犯ノ場合ニ限  
リ令狀ヲ發シ苦シカラス

當分ノ内治罪法第二百五條ノ規則ヲ用ヒテ現行犯ノ場合ニ  
於テハ司法警察官モ令狀ヲ發スルコトヲ得ルナリ

明治十四年九月二十日

太政官布告第四十七号

刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルニハ左ノ手續ニ從フヘ  
シ此旨布告候事

第一條 被告人ヲ責付スルニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテ

モ呼出ニ應シ出廷セシムヘキノ證書ヲ其裁判所書記局ニ  
差出サシムヘシ

第二條 責付中被告人ヲ呼出スルハ出廷ヨリ二十四時前ニ  
其通知ヲ爲スヘシ

第三條 被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セサル  
ルハ檢事ノ意見ヲ聞キ責付ヲ取消スヘシ

治罪法第二百十九條ニ從ヒ被告人ヲ責付スルニハ本文ノ規  
則ニ從フヘキナリ

明治十四年九月二十日

太政官布告第四十八号

刑法治罪法中違警罪裁判ノ儀ハ當分三府五卷ノ市區ヲ除ク

ノ外府縣警察署又ハ警察分署ニテ裁判可致候條此旨布告候事

治罪法ニ據レハ違警罪ハ治安裁判所ニ於テ裁判スヘキナレ  
ト當分ノ内三府五港ヲ除ク外警察署ニ於テ裁判スヘキト云  
フコナリ尤此布告ハ明治十四年第八十号布告ニ依テ改正セ  
ラレタリ

明治十四年九月二十日

太政官達第八十二号

司法官吏ヨリ巡査及ヒ兵員ヲ要求使用スルニハ左ノ手續ニ  
從フヘシ此旨相達候事

第一條 裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢證物

件差押其他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲

兵屯營ニ照會シテ巡査又ハ憲兵卒ヲ使用スルヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ルキハ直チニ鎮

臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルヲ得

裁判官檢察官等檢證物件差押其他職務ヲ行フニ當リ必要  
ナルキハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡査又ハ憲兵卒ヲ  
臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルヲ得ルナリ

明治十四年十月四日

太政官達第八十六號

治罪法實施ニ付テハ大審院其他各裁判所公庭取締ノ使用ニ

供スルタメ其院長所長ノ照會ニ應シ一名又ハ數名ノ巡査爲

相詰又拘留被告人審問中ハ其護送ノ巡査或ハ押丁ヲシテ守

卒トシ公庭ニ入り看護セシムヘシ此旨相達候事

裁判所ニハ紛擾ヲ制シ威嚴ヲ存スル爲メ公ノ兵力ヲ備ヘサ  
ル可ラス故ニ裁判所長ヨリ照會ニ應シ一名又ハ數名ノ巡  
査ヲ裁判所ニ遣ハシ勤番セシムルナリ又拘留セラレタル被  
告人ヲ公庭ニ逃入ルハ其護送ノ巡査又ハ押丁ヲ以テ之レ  
カ守卒ト爲シ逃走又ハ暴行ヲ防カシムルナリ即治罪法第二

百六十五條ニ被告人ハ公庭ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルナ  
シ但守卒ヲ置クイアルヘシト云フニ基ケルナリ

明治十四年十月六日

太政官布告第五十三號

各裁判所ノ位置及管轄ノ區畫別表ノ通改正シ明治十五年一  
月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

治罪法第三十二條ニ裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區劃ハ司法卿  
ノ奏請ニ因リ上裁判ヲ以テ之ヲ定ムトアリ即チ此布告ニヨ  
リ左表ノ如ク位置區劃ヲ定メラレタルナリ

裁判所一覽表

大								控訴
東								始審
東京								治安
本所區	本郷區	芝區	四谷區	麴町區	淺草區	下谷區	京橋區	日本橋區
東京府								府
武藏								縣
								國名
								區郡名
日本橋區 京橋區ノ内								
京橋區ノ内								
下谷區 神田區ノ内 北豐島ノ内								
淺草區 本所區ノ内 南足立 南葛飾ノ内 北豐島ノ内								
麴町區 神田區ノ内 牛込區 南豐島ノ内								
四谷區 赤坂區 東多摩 南豐島ノ内 荏原ノ内								
芝區ノ内 麻布區 荏原ノ内 南豐島ノ内								
本郷區 小石川區 神田區ノ内 北豐島ノ内								
本所區ノ内 深川區 南葛飾ノ内								

刑法治罪法註解大成附錄

裁												訴											
甲府		濱松		静岡		前橋		熊谷		浦和		甲府		濱松		静岡		前橋		熊谷		浦和	
谷村	甲府	掛川	濱松	沼津	下田	静岡	太田	高崎	前橋	大宮	熊谷	山梨縣	静岡縣	濱松縣	沼津縣	下田縣	静岡縣	太田縣	高崎縣	前橋縣	大宮縣	熊谷縣	浦和縣
山梨縣		静岡縣		静岡縣		群馬縣		埼玉縣		埼玉縣		甲斐		遠江		駿河		上野		武藏		武下總	
北都留		東山梨		西山梨		北巨摩		南中巨摩		西群馬		碓氷		南甘樂		片岡		綠野		多胡		吾妻	
新田山田		邑樂		庵原有渡		安部志田		益津		那加加茂		伊豆		駿河		伊豆		上野		武藏		武下總	
城東佐野		榛原		山名周知		豐田磐田		長上敷知		引佐		那加加茂		伊豆		駿河		上野		武藏		武下總	
北都留		東山梨		西山梨		北巨摩		南中巨摩		西群馬		碓氷		南甘樂		片岡		綠野		多胡		吾妻	
北都留		東山梨		西山梨		北巨摩		南中巨摩		西群馬		碓氷		南甘樂		片岡		綠野		多胡		吾妻	

控												京																											
宇都宮		栃木		土浦		水戸		木更津		千葉		横濱		品川		宇都宮		栃木		土浦		水戸		木更津		千葉		八日市場		千葉		八王子		小田原		横濱		品川	
宇都宮	栃木	下妻	土浦	水戸	水戸	木更津	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	神奈川縣	品川	品川	品川	宇都宮	栃木	土浦	水戸	木更津	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	
栃木縣		茨城縣		茨城縣		千葉縣		千葉縣		千葉縣		神奈川縣		品川		品川		品川		品川		品川		品川		品川		品川		品川		品川		品川		品川		品川	
下野		下野		下常陸		下常陸		常陸		安房		上野		上下		上下		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模	
河内		上野		下野		下常陸		下常陸		常陸		安房		上野		上下		上下		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模	
河内		上野		下野		下常陸		下常陸		常陸		安房		上野		上下		上下		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模	
河内		上野		下野		下常陸		下常陸		常陸		安房		上野		上下		上下		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模	
河内		上野		下野		下常陸		下常陸		常陸		安房		上野		上下		上下		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模	
河内		上野		下野		下常陸		下常陸		常陸		安房		上野		上下		上下		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模		相模	

大										所		
園部	大阪			京都			相川	高田	長岡			
園部	天王寺	中ノ島	本田	伏見	下京	上京	相川	糸魚川	高田	六日町	相崎	崎
京都府	大阪府			京都府			新瀉縣	新瀉縣	新瀉縣			
丹波	河内	攝津	攝津	攝津	山城			佐渡	越後	越後		
船井	南桑田	南區ノ内	西成ノ内	東區ノ内	北區ノ内	西成ノ内	乙訓	紀伊	久世	相樂	綴喜	宇治
南桑田	茨田	交野	河内	若江	澁川	高安	志紀	上京區	愛宕	ノ内	葛野	ノ内
北桑田	南桑田	南區ノ内	西成ノ内	東區ノ内	北區ノ内	西成ノ内	乙訓	紀伊	久世	相樂	綴喜	宇治

判												
長岡	新發田	新瀉	上田	長野	松本							
長岡	村上	新發田	新瀉	岩村田	上田	飯山	長野	福島	大町	上諏訪	飯田	松本
	新瀉縣	新瀉縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣	長野縣			長野縣		
	越後	越後	信濃	信濃	信濃	信濃	信濃			信濃		
	古志	北魚沼	三島	刈羽	ノ内					上伊奈	ノ内	諏訪
	岩船									東筑摩	ノ内	南安曇
										西筑摩	ノ内	
										上水内	ノ内	上高井
										下高井	ノ内	下水内
										小縣	植科	ノ内
										北佐久		
										新瀉區	西浦原	中浦原
										北浦原		南浦原



裁												訴											
堺		七尾		富山		金澤		福井		彦根		小濱		滋賀		近江		若狹					
大坂府	石川縣	石川縣	石川縣	石川縣	石川縣	石川縣	石川縣	福井縣	福井縣	福井縣	福井縣	福井縣	福井縣	滋賀縣	滋賀縣	滋賀縣	滋賀縣	近江縣	近江縣	近江縣	近江縣		
河和內	能登	越中	越中	越中	加賀	加賀	加賀	越前	越前	越前	越前	越前	越前	若狹	若狹	若狹	若狹	若狹	若狹	若狹	若狹		
丹北丹南八上	珠洲鳳至	鹿島羽昨	下新川	庄川以東	上新川	射水	能美江沼	金澤區河	大野	南條今立	三方	敦賀	神崎愛知	犬上坂田	伊香	東淺井	西淺井	遠敷大飯					
大縣安宿志紀ノ内																							

控												坂											
大津		津山		岡山		洲本		豐岡		姫路		神戶		宮津		福知山							
大津	津山	津山	津山	岡山	岡山	岡山	岡山	洲本	洲本	洲本	洲本	豐岡	豐岡	豐岡	豐岡	豐岡	豐岡	姫路	姫路	姫路	姫路		
滋賀縣	岡山縣	岡山縣	岡山縣	備前	備前	備前	備前	淡路	淡路	淡路	淡路	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣		
近江	美作	美作	美作	備前	備前	備前	備前	淡路	淡路	淡路	淡路	但馬	但馬	但馬	但馬	但馬	但馬	播磨	播磨	播磨	播磨		
滋賀野洲	全國十二郡	上房阿賀	小田後月	加陽宇都	岡山區	全國八郡	全國二郡	全國八郡	全國八郡	多可加西	印南神東	神西飾東	飾西	多紀水上	明石美濃	加東加古	神戶區	八部菟原	武庫川	邊有馬	天田何鹿		

所 判 裁 訴 控							屋 古 名																			
岐 卓			山 田		安 濃 津		岡 崎		名 古 屋		宇 和 島															
御 嵩	大 垣	岐 卓	山 田	上 野	四 日 市	安 濃 津	豐 橋	岡 崎	一 宮	熱 田	名 古 屋	宇 和 島														
岐 卓 縣			三 重 縣		三 重 縣		愛 知 縣		愛 知 縣		愛 媛 縣															
美 濃		飛 騨	美 濃	志 摩	伊 勢	伊 勢	紀 伊	三 河	尾 張		伊 豫															
加 茂 可 兒 土 岐 惠 那			池 田 大 野		厚 見 羽 栗 各 務 中 島 方 縣 日 縣 武 儀 郎 上 益 田		多 氣 度 會 荅 志 英 虞		全 國 四 郡		桑 名 員 部 朝 明 三 重		河 山 鈴 鹿 奄 藝 安 濃 飯 高 一 志 飯 野 <small>南 車 貫 北</small>		八 名 南 設 樂 室 飯 渥 美		額 田 碧 海 幡 豆 東 加 茂 西		丹 羽 葉 栗 中 島		知 多 愛 知 內		名 古 屋 區 愛 知 內 東 春 日 井 海 東 海 西 西		東 南 宇 和 北	

所 判																													
松 山		高 松		中 村		高 知		脇 田		德 島		田 邊		和 歌 山		奈 良													
大 洲	西 條	松 山	九 龍	高 松	中 村	高 知	高 知	脇 田	德 島	德 島	和 歌 山	和 歌 山	和 歌 山	奈 良	奈 良	奈 良	奈 良												
愛 媛 縣			愛 媛 縣			高 知 縣		高 知 縣		德 島 縣		德 島 縣		和 歌 山 縣		和 歌 山 縣		大 坂 府											
伊 豫			讚 岐			土 佐		土 佐		阿 波		阿 波		紀 伊		紀 伊		大 和											
喜 多 西 宇 和			宇 磨 新 居 周 布 桑 村 越 智			野 間 久 米 風 早 下 浮 穴 和 氣 伊 豫 溫 泉		大 內 寒 川 三 木 山 田 香 川 阿 野 內 小 豆		那 珂 多 度 三 野 豐 田 鶴 足 阿 野 內		幅 多		安 藝 香 美 長 岡 土 佐 吾 川 高		美 馬 三 好 麻 植 阿 波		名 東 名 西 勝 浦 那 賀 海 部 坂 野		日 高 東 牟 婁		和 歌 山 區 伊 都 那 賀 名 草 海 部 有 田		宇 智 吉 野 葛 上 忍 海 高 市 內 葛 下 內		廣 瀨 宇 陀 高 市 內 葛 下 內		添 上 添 下 山 邊 平 群 式 土 式 下 十 市	

控										崎			長		西				
福岡										嚴原	福江	平戶	佐賀		長崎	西郷			
佐伯	大分	小倉	久留米	福岡	嚴原	福江	平戶	唐津	佐賀	嶋原	長崎	西郷	島根						
福岡縣										長崎縣	長崎縣	長崎縣	長崎縣	島根縣					
筑前										筑後	筑前	對馬	肥前	肥前	肥前	肥前	隱岐		
南海部 北海部ノ内 大野ノ内										全國四郡									
大分 北海部ノ内 大野ノ内 速見ノ内										長崎區 北高來 東彼杵 西彼杵ノ内									
企救 田川 京都 中津 筑城 上毛										南高來									
遠賀 鞍手										基肄 養父 三根 神崎 佐賀 小城									
全國十郡										杵島 藤津									
福岡區 席田 粕屋 宗像 穂波 早良 嘉麻										東松浦									
上座 下座 夜須 御笠 志摩 怡土 那珂										西松浦									
全國十郡										北松浦									
全國十郡										全國三郡									
全國十郡										南松浦 西彼杵ノ内									
全國十郡										全國二郡									

所判裁訴控島廣										高
鳥取	米子	濱田	松江	山口	尾道	廣島	高	山	高	山
鳥取	米子	濱田	今市	松江	赤間關	岩國	山口	尾道	三	廣島
鳥取縣	鳥取縣	島根縣	島根縣	山口縣	山口縣	廣島縣	廣島縣	廣島縣	廣島縣	廣島縣
因幡	伯耆	石見	出雲	長門	周防	長門	備後	備前	安藝	安藝
全國八郡	全國六郡	全國六郡	神門 出雲 精縫 飯石	大原 意宇 能義 秋鹿 島根 仁多	大津 阿武 見嶋	赤間關區 厚狹 豐浦	熊毛 大島 玖珂	美彌 佐波 吉敷	安那 神石	御調 甲奴 世羅 深津 品治 沼隈 蘆田
大野 吉城 益田ノ内										豐田
廣島區 沼田 安藝 佐伯 山縣 高宮 加茂										高田
三幣 奴可 三上 三次 惠蘇										高田

所 判 裁 訴										
大分		中津		熊本			天草		鹿兒嶋	
竹田	杵築	中津	豆田	熊本	山鹿	八代	人吉	天草	鹿兒嶋	大島
大分縣		大分縣		熊本縣			熊本縣		鹿兒嶋縣	
豐後		豐前		肥後			肥後		大隅	
直入 大野ノ内		西國東 速見ノ内		熊本區 飽出 託摩 宇土 合志 益城 阿蘇			山鹿 山本 菊池 玉名		八代 葦北	
求麻		天草			鹿兒嶋 日置ノ内 那姓 出水ノ内 掛宿 川邊谷 阿多 給黎 給羅 附 肝屬 熊毛 隅桑 馭謨 薩摩 高城 伊佐 甌島 日置ノ内 出水ノ内 菱刈		大隅		大隅	

控 城 宮										
宮崎		仙臺			福島		白川		平	
宮崎	都城	延岡	仙臺	古川	石巻	大河原	福島	中村	白川	平
鹿兒嶋縣		宮城縣			福島縣		福島縣		福島縣	
日向		陸前			陸前		磐城		磐城	
宮崎 兒湯 諸縣ノ内 那珂ノ内		那珂ノ内 諸縣ノ内			日向 杵		仙臺區 宮城 名取 黒川		志田 加美 玉造 栗原	
伊達ノ内		柴田 伊具 亘理			伊達ノ内		信夫 安達 伊達ノ内		田村ノ内	
宇多 行方		東白川 石川			磐前 磐城 檜葉 菊田 標葉 田村ノ内		南會津 那麻 河沼 大沼 安積ノ内		北會津 那麻 河沼 大沼 安積ノ内	

所 判 裁 訴 控 館 函										
八 戶			弘 前			函 館				
八 戶			五所河原		青 森	弘 前	壽 都	福 山	江 刺	函 館
青森縣			青森縣			開拓使				
陸 奥			陸 奥			後 志	渡 島	後 志	渡 島	瞻 島
三 戶 上 北ノ内			北津輕	東津輕 下北 上北ノ内		西 中津輕 南	島 牧 壽部 歌葉 機谷	松 前	檜山 爾志 久遠 太櫛 瀬棚 奥尻	函館區 龜田 上磯 芽部 山越

所 判 裁 訴										
大 曲	秋 田		磐 井		盛 岡		酒 田	山 形	米 澤	
大 曲	能 代	本 庄	秋 田	磐 井	宮 古	盛 岡	酒 田	新 庄	山 形	
大 曲	秋 田	秋 田	岩 手 縣		岩 手 縣		山 形 縣	山 形 縣	山 形 縣	
羽 後	陸 羽	羽 後	陸 羽	陸 羽	陸 羽	陸 羽	羽 後	羽 前	羽 前	
仙北 平鹿 雄勝	鹿角	山本 北秋田	由利	川邊 南秋田	氣仙	東磐井 瞻澤 江刺	北中 閉伊	東 南 北 九 戶 西 閉伊 北 南 岩手 紫波 稗貫 西 東 和賀	鮎海	西 田 川
								最上	東北 村山	東西 直賜

明治十四年十月六日

太政官布告第五十四号

刑法治罪法實施ノ儀布告候ニ付テハ當分ノ内輕罪ニシテ檢察官ニ於テ豫審ヲ要セスト見込モノニ限リ始審裁判所處在ノ地ヲ除クノ外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲スヲ得ヘシ此旨布告候事

但本文ノ場合ニ於テ訟庭内治罪ノ手續ハ便宜可取計且其手續上ニ付テハ上訴ヲ許サス

檢察官ニ於テ豫審ヲ要セスト見込ム輕罪事件ハ始審裁判所之レナキ地ニ限リ當分ノ内其地ノ治安裁判所ニ於テ之レハ裁判スルヲ得ルナリ此場合ニ於テハ訟庭内審判ノ手續ハ便宜ノ取計ヲ爲シ其手續上治罪法ニ違フト雖モ上訴ヲ爲スヲ許サ、ルナリ

明治十四年十月六日

太政官布告第五十五号

治罪法第七十三條末文陪席判事第七十九條第二項補充判事ノ儀當分其裁判所又ハ院長ノ臨時指定スル所ニ任シ候條此旨布告候事

治罪法第七十三條重罪裁判所ノ陪席判事ハ始審裁判所ニ於テ開クハ其裁判所長及ヒ先任ノ判事ヲ以テ之ニ充ツトアリ又第七十九條大審院刑事局ノ判事差支アルハ民事局判事授任ノ順序ニ從ヒ其職務ヲ行フトアレハ當分ノ内都ヘテ其開應ヲ爲ス裁判所長又ハ大審院長ノ指定ニ任カスルナリ

明治十四年十月八日

太政官布告第五十九号

治罪法中豫審判事勾引狀ヲ發シ勾引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ其訊問期限四十八時間ニ在ル夜間ニ限リ裁判所又ハ最寄警察署留置場ニ入置クヘシ此旨布告候事

治罪法第百二十二條ニ勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四  
十八時間内ニ之ヲ訊問スヘシ云々トアリ其時間ハ固ヨリ公  
庭又ハ加所ニ在ラシムルヲ以テ當然ト爲モトモ只夜間ニ限  
リ其裁判所又ハ最寄警察署ノ留置場ニ入レテシクナリ

明治十四年十月十日  
司法省甲第五号

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡查ヲシテ警部  
ノ代理ヲ爲サシムル義モ可有之候條此旨布達候事

巡查ハ警部ノ指揮ヲ受ケ其使役ニ供スルノミニテ專行ノ權  
ナキニヨリ固ヨリ司法警察官ノ專ヲ行フ可ラズ然レトモ  
宜ニヨリ止テ得ヤル場合ニ於テハ警部代理ト爲シ司法警察  
官ノ事務ヲ攝行セシムルヲ得ルナリ

明治十四年十月十日  
司法省丙第十三號

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ不得止場合ニ於

テハ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシメ不苦候條此旨相達候  
事

但代理人ヲ命スヘキ巡查ノ姓名ハ豫シメ其地方輕罪并違  
警罪裁判所エ通牒致置候儀ト心得ヘシ

前條布達ノ趣意ヲ警視及ヒ地方官ニ達セラレタル者ニテ豫  
シメ其代理ヲ命スヘキ巡查ノ姓名ヲ裁判所ニ通知シ置カシ  
ムル者ハ裁判所ヲシテ其警部代理ナル者ト否トヲ識別セシ  
メ事務上差支勿ラシメシカ爲メナリ

明治十四年十月二十日  
司法省丁第十八号

書記局其他訟廷等ノ心得書別紙ノ通相達候事  
書記局其他訟廷等ノ掌務心得書

第一條 書記局諸般ノ事務ハ各員輪轉之ヲ執リ豫メ其主掌

ヲ定メス

第二條 訟廷ノ取締被告人扣所ノ看守ハ巡查獄卒等ヲシテ之ヲ掌ラシムヘシ

第三條 訴訟口詰ハ雇員ヲ以テ之ニ充テ訴訟人呼入其他訟廷ニ關スル雜事ノ使用ハ小使ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四條 門候ヲ置クト否トハ其廳ノ便宜ニ任ス若シ之ヲ置クトキハ雇員又ハ小使ヲ以テ之ヲ掌ラシムヘシ

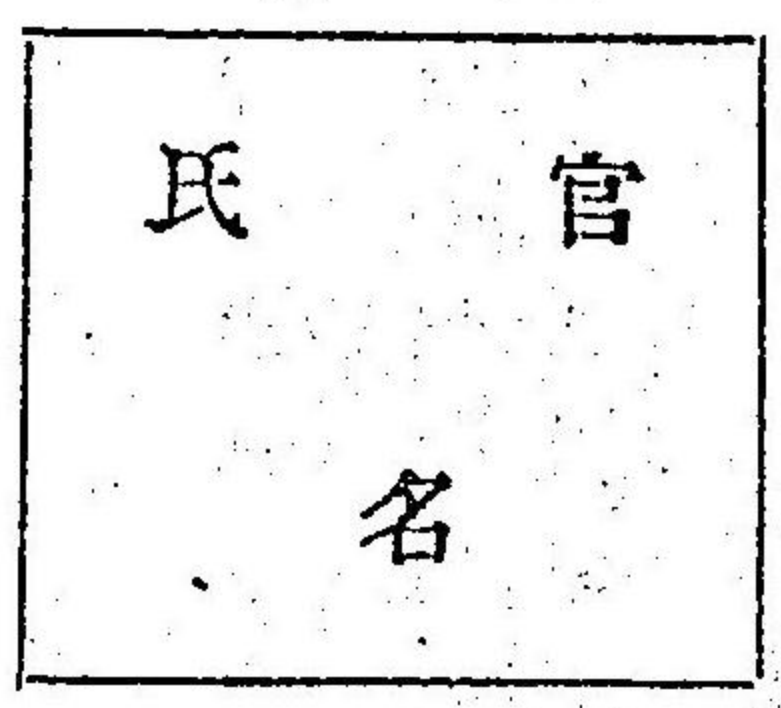
但東京各裁判所ハ此限ニ在ラス

第五條 宿直ハ等外吏雇員等ニテ之ヲ務メシメ在宅當番(退廳後ヲ云フ)ハ判任官ニテ順次之ヲ務メシムヘシ

但東京裁判所ハ此限ニ非ス

明治十四年十一月十五日

司法省丁第二十一號  
法律上判事檢事書記等署名捺印ヲ要スル節相用フヘキ印章ハ左ノ雛形ニ照シ名自彫刻シ費用ハ官費支拂ニ相立候儀ト可心得此旨相達候事



勅任方九分 曲尺

奏任方七分 全

判任方六分 全

書記ハ裁判所書記某ト刻ス字休ハ篆楷適宜タルヘシ但認メ易キヲ要ス

明治十四年十二月二日



司法省甲第七号

治罪法第三百十五條裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ求ムル者  
ハ其用紙一枚金三錢ノ費用ヲ上納スル儀ト可心得此旨布達  
候事

● 治罪法第三百十五條ニ據ルニ裁判書ノ謄本ハ當然下附セラ  
ルヘキ者ニ非ラスモテ只訴訟關係人ノ請求ニヨリテ下附セ  
ラレハキナリ而テ其之ヲ下附スルハ公益ノ爲ニ非ラズテ獨  
リ請求者ノ利益ノ爲メニスル者ナルヲ以テ其費用ハ之ヲ請  
求者ヨリ徴収スルナリ

明治十四年十二月二日

司法省甲第八号

大審院諸裁判所々属代言人規則別紙ノ通相定候條此旨布達  
候事

所属代言人規則

第一條 治罪法中所属代言人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判

處所在ノ地ニ住居スル免許代言人ヲ云

第二條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代言人辯護人ハ正

當ノ事由ヲ證明スルニアラサレハ之ヲ辭スルヲ得ス

第三條 代言又ハ辯護受任中代言免許満期ニ至リ引續營業

セス又ハ發業スト雖モ該事件終結ニ至ルマテ其代言辯護

ヲ擔當スヘシ

第四條 代言又ハ辯護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ

關クヲ得ス

第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代言人辯護人ヲ選任シタル場

合ニ於テモ其謝金ハ被告人之ヲ擔當スヘシ總テ謝金ニ付

テハ出訴スルヲ許サス

明治十四年十二月五日

司法省丙第十五号

治罪法實施ノ上ハ豫審判事檢事檢證及ヒ物件差押ノ事件ニ付急速ヲ要スル場合直ニ巡查ヲ同行シ又ハ所在ノ巡查ヲ使  
用スル儀モ可有之候條豫テ可達置此旨相達候事

明治十四年九月二十日太政官第八十二号達ニヨレハ司法官  
吏ヨリ巡查及ヒ兵員ヲ要求使用スルハ警察署又ハ憲兵屯  
營ニ照會シテ云々トアレトモ豫審判事檢事檢證及ヒ物件差  
押ノ事件ニ付急速ヲ要シ警察署ニ照會ヲ爲スノ違アラサル  
ルハ直ニ巡查ヲ同行シ又ハ其場所ニ居ル巡查ヲ見當リ次  
第使用シテモ苦シカラサルヲ云フナリ

明治十四年十二月五日

司法省丙第十六號

治罪法中犯人證人等押印ノ條々實印無之者ニ限り從來ノ慣  
例ニ依リ拇印爲致候儀ト心得ヘシ此旨相達候事

治罪法ニ從ヒ押印ヲ爲スルハ實印ヲ押スヘキヲ勿論ナレト  
モ實印無之者ニ限り拇印ヲ以テ實印ニ代用セシムルナリ

明治十四年十二月五日

司法省丁第廿六號

使丁規則別冊之通相定候條明治十五年一月一日ヨリ施行ス  
ヘク此旨相達候事

使丁規則

第一條 各裁判所書記局ハ刑事民事ニ關スル召喚狀其他書  
類ヲ送達セシムル爲メ其請資人ヲ定メ之ヲ使丁取締トス  
使丁取締ハ一人トス但場所ニ因リ二人以上ヲ命スルコトアル可シ  
第二條 使丁ハ使丁取締之ヲ撰ヒ其氏名ヲ書記局ニ届出鑑  
札ヲ受ルモノトス使丁ノ人員ハ使丁取締適宜之ヲ定メ書

記局ノ許可ヲ受ク可シ

第三條 使丁取締ハ送達ノ事ニ付總テ其責ニ任スルモノトス

第四條 使丁取締ハ常ニ裁判所ニ在テ送達ノ事ヲ取扱フ可シ

第五條 使丁ハ送達ヲ爲ス時裁判所ノ鑑札ヲ帶行ス可シ

第六條 送達ヲ爲スニハ其法律規則ニ從フ可シ

第七條 使丁取締及ヒ使丁ハ訴訟ニ付代人トナリテ訟庭ニ出ルコトヲ許サス

第八條 送達ノ事ニ關シ他人ニ損害ヲ被ラシメタルキハ使

丁取締其償ヲ擔當スヘシ但使丁ノ過失懈怠ニ由ルキハ使

丁取締ハ之ニ對シ更ニ其償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 送達賃錢ハ書類ノ大小ニ拘ハラヌ一通ニ付一里五

錢以下トス賃錢ノ定限ハ使丁取締之ヲ申立書記局之ヲ決  
シ且送達書ニ其賃錢高ヲ附記スヘシ

第十條 賃錢ノ定限ハ其取扱所ニ貼示シ三日以上新聞紙ニ

掲載シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ公告ス可シ

第十一條 刑事ニ付テノ送達賃錢ハ其送達ヲ受ルモノヨリ  
之ヲ拂置ク可シ但左ノ場合ニ於テハ書記局ヨリ之ヲ拂置  
ク可シ

一 檢察官又ハ裁判官ヨリ呼出ス證人鑑定人通事ノ呼出狀

二 檢察官ノ控訴申立ヲ被告人ヘノ通知及ヒ呼出狀

三 檢察官ヨリ被告人ヘ送達スル上告申立書及趣意書

第十二條 刑事附帶ノ私訴及ヒ民事ニ付テノ送達賃錢ハ總  
テ其送達ヲ請求スル者ヨリ之ヲ拂フ可シ

第十三條 送達賃錢ニ付テノ訴訟ハ其書類ヲ發シタル裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第十四條 使丁取締ハ書類送達ヲ正實ニ取扱フ可キ旨ノ書面ヲ書記局ニ差出ス可シ

第十五條 使丁取締及ヒ使丁此規則ニ違背シタルハ裁判所書記局ハ使丁取締ニ左ノ除件中ニテ相當ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 貳十圓以下ノ違約金ヲ納メシムル事

二 解職セシムル事

三 事情重キ者ハ違約金ヲ納メ解職セシムル事

第十六條 使丁取締タルニハ其裁判所々在地ニ家屋ヲ有シ滿二十一歳以上ノ者ニシテ書記局ノ試験ヲ經ルヲ要ス

使丁取締タルニハ身元保証トシテ金五十圓以上ノ價格アル公債証書地券又ハ銀行其他官許アル株券証書ヲ書記局ニ納ムヘシ但此保証金ハ解職ノ時下戻ス可シ

第十七條 試験ハ書記二名以上ニテ之ヲ爲ス可シ但書記不足ナルハ雇ヲ以テ之ニ充ツヘシ

試験ノ科目ハ左ノ如シ

一 使丁規則

二 請負郡村ノ地名又ハ里數

三 普通書簡ノ書讀

第十八條 實決ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辯償ヲ終ラサル者ハ使丁取締又ハ使丁タルヲ許サス

治罪法第二十二條ニ在ル處ノ書記局所屬ノ使丁ナル者ハ此規則ニ依テ之ヲ命シ且職務ヲ取扱ハシムルナリ

明治十四年十二月九日

司法省丁第廿七號

本年第五十四號公布ニ依リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クキハ其管轄輕罪裁判所ノ名稱ヲ用ヒ其印ヲ捺シ某治安裁判所ニ於テスルヲ附記スヘシ左ニ雛形相添ヘ此旨相達候事

書式雛形

於八王子治安裁判所

橫濱輕罪裁判所

印章雛形

橫濱輕罪  
裁判所

明治十四年十二月十五日

右

奉勅旨布告候事

太政大臣

農商務卿

司法卿

明治十四年十二月十五日

太政官布告第六十五号

商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定ス

商船内犯罪取扱規則

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スヲ得

第二條 船長告訴告發ヲ受ケタルキ又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルヲ知リタルキハ其事件ニ付假ニ訊問檢証ノ處分ヲ爲シ且証憑及ヒ事實參考ト爲ヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作ルヘシ但調書ヲ作ルヲ能ハサルキハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其中立ヲ爲スヘシ前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條 船長ハ証憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ着港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若シ外國ノ港埠ニ着シタルキハ其地駐劄

ノ領事ニ之ヲ引渡スヘシ

船内ニ於テ犯罪アルキ疾ク其處置ヲ行ハサレハ犯人逃走  
 証據減テ恐テ犯罪アルキ疾ク其處置ヲ行ハサレハ犯人逃走  
 ハ軍艦長ヲ以テ豫之テ處分ヲ爲スルキ職務ノ一部ニ於テ  
 於テ海軍檢警等ノ審判分屬シキ職務ノ一部ニ於テ  
 返訊問檢警等ノ審判分屬シキ職務ノ一部ニ於テ  
 事又ハ其法留官本領事ニ引渡スルキ者トス  
 事又ハ其法留官本領事ニ引渡スルキ者トス

明治十四年十二月十二日  
司法省丁第廿八号  
治罪法中ニ掲ケタル送達書呼出召喚状勾引状  
勾留状收監状及宣誓書式別紙、通相定候條右  
ニ照準ス可シ此旨相達候事

明治十四年十二月十二日

司法省丁第廿八号

治罪法中ニ掲ケタル送達書呼出召喚状勾引状  
勾留状收監状及宣誓書式別紙、通相定候條右  
ニ照準ス可シ此旨相達候事

送達書

一送達スヘキ書名 壹冊

一同 壹通

右使丁夫以テ何府縣下何町又ハ何

國何郡何村何番地何某一送達セシ

ムル者也

明治 年 月 何裁判

裁判所 何之印

書記 氏名印

割印

同上畧之

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事

由 送達シタル月日時

送達シタル場所

親屬雇人若クハ戸長ハ書類ヲ渡シタル時ハ其事由

右致送達候也

使丁氏名印

是ヲ中断シテ一葉ヲ受取人ニ渡シ一葉ヲ書記局ヘ還納ス可シ

呼出状

住所身分職業

氏名

右云々ノ事件ニ付證人トシテ相尋ル儀有之來ル何月日時何所ニ出頭可致者也

但同日時出頭セサルニ於テハ罰金ヲ言渡シ且勾引状ヲ發スル丁アル可シ

明治 年 月

何裁判所

豫審判事 氏名印

割印

同上畧之

此呼出状ハ出頭ノ節書記局ニ差出ス可シ

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事

由 送達シタル月日時

送達シタル場所

親屬雇人若クハ戸長ニ渡シタル時ハ其事

右之通取扱候也

明治 年 月 日 使丁氏名印



召喚状

住所及職業  
氏名

右云々ノ事件ニ付訊問ノ筋有之何  
月日時當裁判所ニ出頭可致者也

明治 年 月 日  
何裁判  
所之印

裁判所

豫審判事 氏名印  
書記 氏名印

割印

同上畧之

是ヲ中断シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

受取人ノ署名 捺印若シ能ハ サレ時ハ其事 由	送達シタル 月日時	送達シタル 場所	親屬雇人若ク ハ戸長へ書類 ヲ渡シタル時 ハ其事由

右之通取扱候也  
明治 年 月 日  
使丁氏名印

檢事官印 勾引状

住所及職業  
氏名  
若シ氏名不明ニナルハ  
容貌体格等

右云々ノ事件ニ付訊問ノ筋有之當  
裁判所へ勾引不可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜  
索可シ

明治 年 月 日  
何裁判  
所之印

豫審判事 氏名印  
書記 氏名印

割印

同上畧之

勾引シタル被 告人ノ署名捺 印若シ能ハサ レ時ハ其事由	執行シタル 月日時	執行ノ場所	執行ノ手續	家宅搜索ヲ為 シタル時ハ其 由	勾引スルヲ能 ハサル時ハ其 事由	右ノ通取扱候也 明治 年 月 日 巡查又ハ憲兵氏名印
			被告人正木ノ示シ贖本ヲ下附ス			

〔檢事官印〕 勾留状

住所身分職業

氏名

〔若シ氏名分明ナラサルハ  
容貌体格等〕

右云々ノ事件ニ付治罪法第百二十  
六條ノ規則ニ從ヒ 監倉へ勾留

ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜  
索ス可シ

明治 年 月 日

何裁判  
所之印

何裁判所

豫審判事

氏名印

書記

氏名印

割印

同上畧之

勾留シタル被 告人ノ署名捺 印若シ能ハサ ル時ハ其事由	執行シタル 月日時	執行ノ手續 場所	家宅搜索ヲ為 シタル時ハ其 事由	勾留スルヲ能 ハサル時ハ其 事由
--------------------------------------	--------------	-------------	------------------------	------------------------

右之通取扱候也  
明治 年 月 日 時  
巡查又ハ憲兵氏名印

檢事官印

收監状

住所身分職業

氏名

〔若シ氏名分明ナラサルハ  
容貌体格等〕

右云々ノ事件ニ付取調ヲ為シタル  
處本罪刑法第 條ニ該ル可キ者ト

思料ス依テ檢事ノ意見ヲ聽キ

監倉ニ收監ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜  
索ス可シ

明治 年 月 日

何裁判  
所之印

何裁判所

豫審判事

氏名印

書記

氏名印

割印

同上畧之

收監シタル被 告人ノ署名捺 印若シ能ハサ ル時ハ其事由	執行シタル 月日時	執行ノ手續 場所	家宅搜索ヲ為 シタル時ハ其 事由	收監スルヲ能 ハサル時ハ其 事由
--------------------------------------	--------------	-------------	------------------------	------------------------

右之通取扱候也  
明治 年 月 日 時  
巡查又ハ憲兵氏名印

# 宣誓書

何々ノ事件ニ付愛憎畏懼  
 ノ心ナク總テ正實ニ  
 鑑陳通  
 定述譯  
 ス可キ了ヲ誓フ

明治年月日

通事 証人 鑑定人

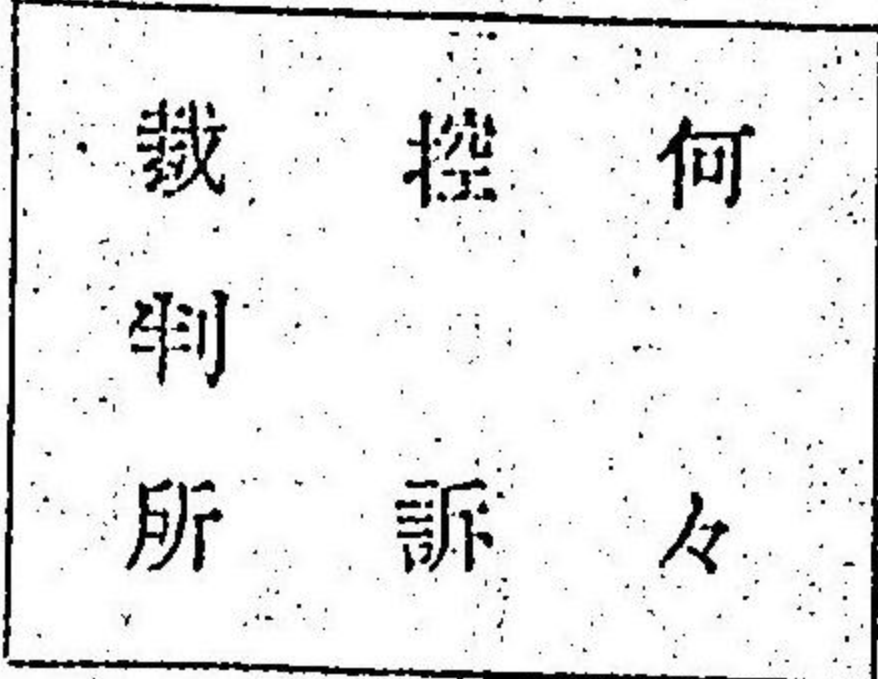
氏名印

明治十四年十二月十四日

司法省丁第三十号

裁判所印章ノ儀來明治十五年一月一日以後左ノ通改定候條  
 各廳ニ於テ調製シ印鑑ヲ以テ可届出此旨相達候事

方曲一尺寸五分



控訴 始審 治安 輕罪 違警罪

裁判所各一類ヲ  
 彫刻ス

明治十四年十二月十五日

司法省丁第三十一号

本年本月甲第七號布告裁判所言渡ノ謄本又ハ拔畫ヲ求ムル

者代價ノ儀無資力ニシテ上納スル能ハサル者ニ限り無代價ニテ下渡スモ不否儀ト可心得此旨相達候事

治罪法第三百十五條ニヨリ裁判書ノ謄本又ハ拔書ヲ求ムル者無資力ニシテ費用ヲ上納スルコト能ハサル者ニカキリ費用ヲ徴收セズシテ下附スルコトニテ即チ明治十四年十二月申第七号布達ノ例外ナリ

明治十四年十二月廿八日

太政官布告第七拾壹号

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ内其處在地

ノ警部ヲシテ檢事ノ職務ヲ代理セシム

右奉勅旨布告候事

明治十四年九月二十日第四十六号布告ニヨリ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クハ其檢察官ノ職務ハ其他ノ警部ヲシテ執行ハシムルナリ

明治十四年十二月廿八日

太政官布告第七十三號  
治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當人ト稱スル者ハ左ノ通

治罪法第十二條第九十八條第一百十二條ニ無能力者及ヒ法律ニ定メタル代人ト云フ者アリ又治罪法第十四條以下ニ民事擔當人ト云フ語所々ニ散見セリ此布告ハ解釋シタル者ナリ

無能力者

一未丁年者

二妻タル者

三白痴瘋癲人

四治産ノ禁ヲ受ケタル者

滿二十歳以下ノ未丁年者ハ自ラ財產ヲ治ルノ能力ナキ者トシ又丁年ト雖モ人ノ妻タル婦人ハ萬事ヲ治ルノ能力ニ從フヘキ者ナレハ夫ノ指揮ヲ待タズシテ自ラ財產ヲ治ルノ權利ナシ

ト又白痴癡癩人及ヒ刑法ニヨリ治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ  
自ラ財產ヲ治ルニ能ハサルハ因ヨリ論テ待タサルナリ是等  
ノ者ヲ治罪法ニ於テ無能力者ト稱シ左ニ掲ケタル法律ニ定  
メタル代人代テ財產ヲ治ル者トスルナリ

法律ニ定メタル代人

一未丁年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人

二夫タル者

三白痴癡癩人ノ保管者

四治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ財産管理人

未丁年者ハ父若クハ母又ハ親屬ノ後見人タル者又親屬ナラ  
サルモ後見人タル者代テ其財產ヲ管理スル人ノ妻タル者白  
痴癡癩人治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ夫保管者財産管理人代  
其財產ヲ支配ス是等ノ者ハ本人ヨリ代人ノ委任ヲ受ケタル  
之ヲ法律ニ定メタル代人ト稱スルナリ

民事擔當人

一未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス  
者

二夫タル者

三白痴癡癩人ノ保管者

四雇主

但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ者

民事擔當人トハ犯罪人ノ所爲ニ付テ其責ニ任シ被害者ニ對  
シ犯人ノ所爲ヨリ生シタル損失ヲ償フ者トキ同義ヲアル者ナ  
リ即チ未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ  
爲ス親屬夫白痴癡癩人ノ保管者及ヒ雇主トキ但シ雇主ハ雇人  
カ其雇主ノ命ヲ受テ行フタル事件ニ就テ人ニ損害ヲ加ヘカ  
ル作ノミ其責ニ任スルナリ

明治十四年十二月廿八日

太政官布告第七十六號

本年十月第五十三號布告裁判所名稱區劃表始審ノ行中相川

豐岡洲本田邊脇町高山西郷平戸福江巖原天草大曲八戸ノ名  
稱ヲ削除シ其管轄ハ相川ヲ新瀉ニ豐岡ヲ姫路ニ洲本ヲ神戸  
ニ田邊ヲ和歌山ニ脇町ヲ徳島ニ高山ヲ岐阜ニ西郷ヲ松江ニ  
平戸福江巖原ヲ長崎ニ天草ヲ熊本ニ大曲ヲ秋田ニ八戸ヲ弘  
前ニ合併ス

右奉勅旨布告候事

明治十四年第五十三號布告中裁判所ノ位置區劃ノ改正ナリ

明治十四年十二月廿八日

太政官布告第七拾四號

治罪法中刑事ノ控訴ニ關スル條件ハ當分ノ内實施セス

右奉勅旨布告候事

當分ノ内刑事控訴ニ關スル規則ハ之ヲ實施セス由テ刑事ニ  
付テハ一切控訴ヲ爲スコトヲ許サハルナリ

明治十四年十二月廿八日

太政官布告第七拾七號

本年十月第五十四號ヲ以テ輕罪ニシテ豫審ヲ要セサルモノ  
ニ限リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クヲ得ヘキ旨布告  
候處當分ノ内相川豐岡洲本田邊脇町高山西郷平戸福江巖原  
天草大曲八戸ノ各治安裁判所ニ於テハ輕罪裁判所ヲ開  
キ總テノ輕罪ヲ裁判スルコトヲ得ヘシ

但シ本文ノ場合ニ於テ訟庭内治罪ノ手續等ハ本年第五十  
四號布告但書ノ通りタルハシ

右奉勅旨布告候事

本文ニ掲ケタル地ノ治安裁判所ニ於テハ當分ノ内輕罪裁判  
所ヲ開キ豫審ヲ要スル手續ハ第五十四號布告但書ノ通り  
取リ又其訟庭内審判ノ手續ハ第五十四號布告但書ノ通り  
取計ヲ爲シ且上訴ヲ許サハルナリ

明治十四年十二月廿八日

太政官布告第七十八號

重罪裁判所管轄區劃別紙ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但治罪法第七十二條ニ從ヒ管内便宜ノ裁判所ニ於テ一ヶ處又ハ數ヶ所開廳スヘシ  
右奉勅旨布告候事

重罪裁判所管轄

東京重罪裁判所管轄

東京始審裁判所管轄ノ地方

神奈川重罪裁判所管轄

横濱始審裁判所管轄ノ地方

新潟重罪裁判所管轄

新潟 高田 長岡 新發田始審裁判所管轄ノ地方

埼玉重罪裁判所管轄

浦和 熊谷始審裁判所管轄ノ地方

千葉重罪裁判所管轄

千葉 木更津始審裁判所管轄ノ地方

橡木重罪裁判所管轄

椽木 宇都宮始審裁判所管轄ノ地方

群馬重罪裁判所管轄

前橋始審裁判所管轄ノ地方

茨城重罪裁判所管轄

水戸 土浦始審裁判所管轄ノ地方

山梨重罪裁判所管轄

甲府始審裁判所管轄ノ地方

静岡重罪裁判所管轄

静岡 濱松始審裁判所管所ノ地方

長野重罪裁判所管轄

松本 長野上田始審裁判所管轄ノ地方

大坂重罪裁判所管轄

大坂 堺 奈良始審裁判所管轄ノ地方

京都重罪裁判所管轄

園部 宮津始審裁判所管轄ノ地方

兵庫重罪裁判所管轄

神戸 姫路始審裁判所管轄ノ地方

和歌山重罪裁判所管轄

和歌山始審裁判所管轄ノ地方

滋賀重罪裁判所管轄

大津 彦根始審裁判所管轄ノ地方

德島重罪裁判所管轄

德島始審裁判所管轄ノ地方

岡山重罪裁判所管轄

岡山 津山始審裁判所管轄ノ地方

福井重罪裁判所管轄

福井始審裁判所管轄ノ地方

石川重罪裁判所管轄

金澤 富山 七尾始審裁判所管轄ノ地方

高知重罪裁判所管



高知 中村始審裁判所管轄ノ地方  
 愛媛重罪裁判所管轄  
 松山 高山 宇和島始審裁判所管轄ノ地方  
 長崎重罪裁判所管轄  
 長崎佐賀始審裁判所管轄ノ地方  
 福岡重罪裁判所管轄  
 福岡始審裁判所管轄ノ地方  
 熊本重罪裁判所管轄  
 熊本始審裁判所管轄ノ地方  
 大分重罪裁判所管轄  
 大分 中津始審裁判所管轄ノ地方  
 鹿兒島重罪裁判所管轄

鹿島 宮崎始審裁判所管轄ノ地方 沖繩縣地方  
 函館重罪裁判所管轄  
 函館始審裁判所管轄ノ地方 開拓使札幌地方  
 青森重罪裁判所管轄  
 弘前始審裁判所管轄ノ地方  
 愛知重罪裁判所管轄  
 名古屋 岡崎始審裁判所管轄ノ地方  
 岐阜重罪裁判所管轄  
 三重 安濃津 山田始審裁判所管轄ノ地方  
 宮城重罪裁判所管轄  
 仙臺始審裁判所管轄ノ地方  
 福島重罪裁判所管轄

福島若松 平 白川始審裁判所管轄ノ地方  
 磐手重罪裁判所管轄  
 盛岡 磐井始審裁判所管轄ノ地方  
 山形重罪裁判所管轄  
 山形 米澤 酒田始審裁判所管轄ノ地方  
 秋田重罪裁判所管轄  
 秋田始審裁判所管轄ノ地方  
 廣島重罪裁判所管轄  
 廣島尾道始審裁判所管轄ノ地方  
 山口重罪裁判所管轄  
 山口始審裁判所管轄ノ地方  
 島根重罪裁判所管轄

松江 濱田始審裁判所管轄ノ地方

鳥取重罪裁判所管轄

鳥取 米子始審裁判所管轄ノ地方

明治十四年十二月廿八日

太政官布告第七十九号

各裁判所ノ位置及管轄區畫ノ儀本年十月第五十三号ヲ以テ  
 布告候處北海道(函館始審裁判所管内ヲ除ク)并ニ沖繩縣ノ儀  
 ハ當分從前ノ通其所轄ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜ノ取  
 計ヲ爲スヘシ(但控訴ノ儀北海道ハ函館控訴裁判所沖繩縣ハ  
 長崎控訴裁判所管轄ニ屬ス  
 右奉勅旨布告候事

第五十三号布告ノ例外ナリ



本年十月第五十三號布告ヲ以テ各裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區畫改正候ニ付テハ從前布告布達中上等裁判所トアルハ控訴裁判所地方裁判所トアルハ始審裁判所區裁判所トアルハ治安裁判所ト改メリ候儀ト心得ヘシ

右布達候集  
明治十五年一月九日  
太政官布告第壹號

治罪法第三百八拾壹條第壹項ニ若シ辯護人ナクシテ辯論ヲ爲シタルキハ刑ノ言渡ノ效ナカルヘシト有之候得共其裁判所處屬ノ代官人無之場所ニ於テハ當分ノ内辯護人ヲ用ヒサルモ其刑ノ言渡ハ無效ノ限ニ在ラス  
右奉勅旨布告候事

當分ノ内代官人無之地方ニ限リ重罪公判ニ弁護人ヲ用ヒサルモ其言渡ノ有效タル旨ヲ定メタルナリ

明治十五年二月一日  
太政官布告第七號

治罪法第十九條第二項海上路程ノ猶豫ハ陸地四里ノ割合ヲ以テ一日ヲ加フル者ト定ム

右奉勅旨布告候事

治罪法第十九條第二項ニ島地又ハ外國トノ路程ノ猶豫ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ムトアリ此布告ハ即チ島地及ヒ外國トナリ海上路程ノ猶豫ヲ四里コトモ一日ヲ加ユル者ト定メタル

明治十五年二月六日  
司法省丙第四號

治罪法ニ定メタル拘引狀ノ期限ニハ總テ休暇ノ日ヲ算入ス可ラス但平常休暇ナキ官署ニ付テハ此例ヲ用ヒサル儀ト心

得ヘシ  
此旨相達候事

治罪法第百二十二條ニ勾引状ヲ發シタル被告人ハ四十八時  
内ニ之ヲ訊問スヘシトア引此期限ニハ休暇ナキ官署ヨリ發シ  
タル勾引状ニ付テハ休暇ノ如キモ期限ニ算入スルナリ

刑法治罪法註解大成附錄終

明治十五年四月廿一日出版御届  
同 年六月 出版

定價六十錢

註解人

滋賀縣士族  
森 作 太 郎  
大阪府下東區高船橋五丁目七番地寄留  
大阪府平民

出版人

同 南區心齋橋筋二丁目四十三番地  
松村九兵衛

同

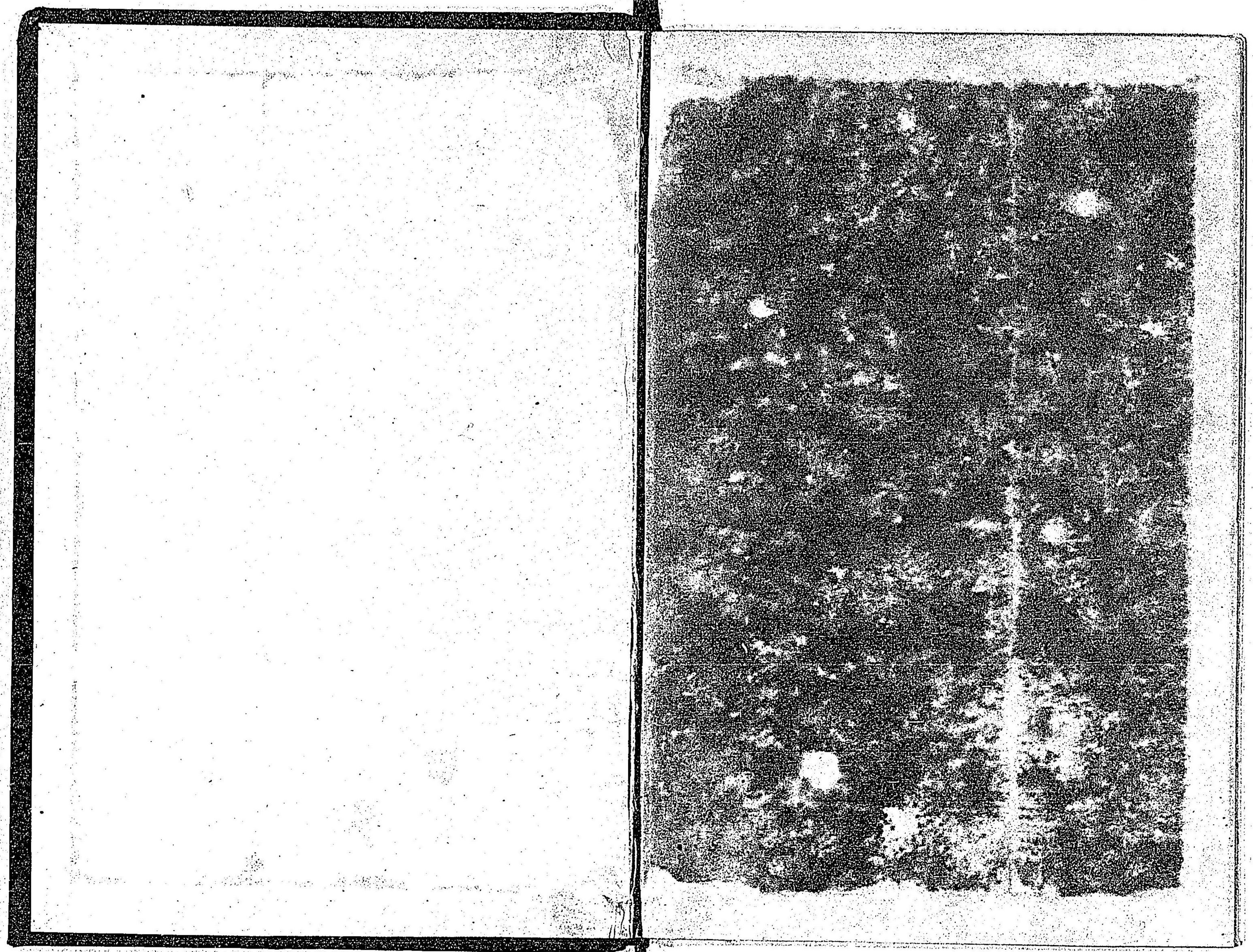
同 東區安土町四丁目三十八番地  
鹿田 靜 七

同

同 東區北久太郎町四丁目十五番地  
柳原喜兵衛

Table with 4 columns and 4 rows of text.

丁	丙	乙	甲
丁	丙	乙	甲
丁	丙	乙	甲
丁	丙	乙	甲



館書圖京東

函五四 門新

架一 部一一

號 類



刑法附錄  
註解大成

森作太郎註解

